

News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

令和
7年
8月

ここ栃木では、連日酷い暑さが続いています。皆さんの地域ではいかがですか？秋が恋しい今日この頃、8月 Newsletter 第84回配信です。

【診療科紹介 皮膚科】

皮膚は私たちの体を覆う最大の臓器で、成人では約 1.6 m²にも及びます。外界からの刺激から体内を守るバリアとしての機能、水分保持、体温調節、感覚器、免疫臓器としての役割を担い、外観や精神的健康にも影響するため、その診療にあたっては生活の質（QOL）への配慮も不可欠です。

当科では、乾癬、アトピー性皮膚炎、自己免疫性水疱症、薬疹、脱毛症、悪性黒色腫など皮膚免疫疾患や皮膚腫瘍の症例が集積し、全国的にも豊富な症例を誇ります。生物学的製剤や免疫チェックポイント阻害薬、分子標的薬といった最新の治療も積極的に導入しており、実践的な臨床経験が積める環境です。皮膚外科では、週 3 日、中央手術室にて手術を行なっています。皮膚悪性腫瘍の切除、リンパ節郭清、皮弁再建術、下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術などを実施しています。内科的診断から外科的治療、病理・遺伝子診断まで幅広く対応し、総合的医療を学べる魅力的な分野です。

当科は、様々な出身大学の医局員からなり、派閥もなく、Diversity and Inclusive を正に実践しているような医局です。気軽な雰囲気です。相談しやすく、豊富な症例を通じて実践的に皮膚科学を学べる環境です。自治医科大学の Teams を活用し、皮膚科講座チャンネルを作っていますので、医局内でリアルタイムに情報共有が可能です。病理や臨床の勉強会を定期的に行い、病態から疾患を理解し治療する努力を地道に継続しています。学会発表も数多く積極的に行っています。研究に関しても、遺伝子組換え実験室（P2）、リアルタイム PCR システム、蛍光顕微鏡などを完備し、必要あれば共通機器や他教室の機器を利用させてもらっています。乾癬、アトピー性皮膚炎、悪性黒色腫、褥瘡、皮膚老化、遺伝性疾患などの疾患を対象に遺伝子レベルでの解析や、モデルマウスを用いた動物実験、症例集積研究などを行なっています。診療・研究・教育のバランスをとりながら、専門性を高められる医局です。

皮膚科学に興味のある方はもちろん、進路に迷う方も大歓迎です。教育体制や診療の奥深さを、ぜひ肌で感じてください。見学は随時受付中ですので、お気軽にご連絡ください。



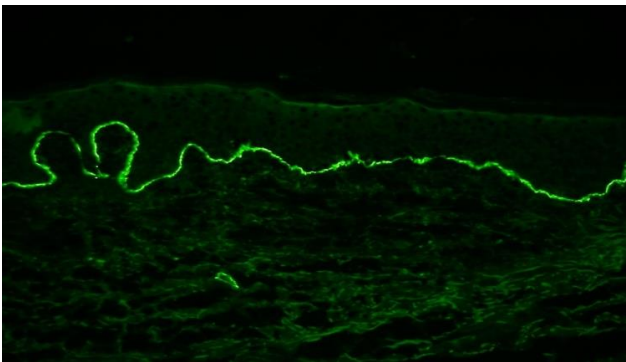
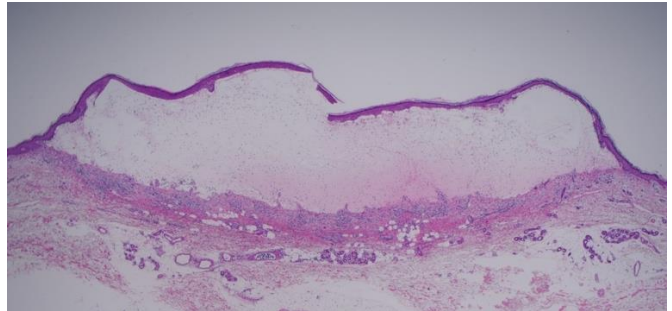
【医師国家試験予想問題】

皮膚科は医師国家試験全体の約 2%（8～11 問前後）と出題数は少なめですが、日常診療では皮膚症状をみる機会が多く、全科に必要な基本的知識が求められます。出題はアトピー性皮膚炎、乾癬、悪性黒色腫などの頻出疾患を中心に、水疱症や膠原病など多岐にわたります。まずは重要疾患に絞って理解を深め、他科の勉強中に皮膚症状の記載のある疾患があった際は皮膚科教科書も参照すると効果的です。

「標準皮膚科学」や「あたらしい皮膚科学」などの教科書を軸に、必要に応じて国試対策書籍や専門書を活用して学習を進めましょう。

設問1 72 歳の男性。体幹、四肢の水疱と紅斑とを主訴に来院した。3 か月前から全身の紅斑と瘙痒感があり、1 週前から水疱が出現した。血液所見：白血球 9,000（好中球 60%、好酸球 20%、単球 3%、リンパ球 17%）、血小板 25 万。血液生化学所見：随時血糖 150 mg/dL、HbA1c 6.9%、総蛋白 8.0 g/dL、アルブミン 4.0 g/dL、Cr 0.8 mg/dL。CRP 0.3 mg/dL。下肢の写真、皮膚生検の H-E 染色標本、および蛍光抗体直接法標本（IgG）を以下に示す。この疾患で正しいのはどれか。2 つ選べ。

- a 弛緩性水疱を生じる。
- b ヒトからヒトへ感染する。
- c 免疫チェックポイント阻害薬が誘因となる。
- d グルココルチコイドの全身投与が必要となる。
- e 黄色ブドウ球菌の産生する毒素が誘因となる。



答え c,d

水疱性類天疱瘡は高齢者に好発する自己免疫性水疱症である。ヘミデスモソームを構成する 17 型コラーゲン（BP180）や BP230 蛋白に対する自己抗体によって生じ、表皮下水疱を特徴とする。血清中の自己抗体の検出には ELISA や CLEIA 法が有用である。また、血清中や病変部での自己抗体を調べるためには蛍光抗体法が有用である。病理組織所見、蛍光抗体直接法の所見からは、後天性表皮水疱症も鑑別にあがる。後天性表皮水疱症は 7 型コラーゲンに対する自己抗体によって生じる。水疱性類天疱瘡と後天性表皮水疱症の鑑別には、1M 食塩水剥離皮膚を基質とした蛍光抗体間接法が有用である。

- a 表皮下水疱を特徴とする疾患で、緊満性水疱を生じる。
- b 感染症のようにヒトからヒトへ症状が広がることはない。
- c 近年 DPP-4 阻害薬や免疫チェックポイント阻害薬により誘発される症例が増えた。
- d 治療はグルココルチコイド内服、点滴などの全身投与が第一選択である。病勢が抑えられないような中等症から重症例では、免疫グロブリンの大量療法や血漿交換などを併用する。
- e 水疱性膿疱疹は、黄色ブドウ球菌が原因で、この菌が産生する表皮剥脱毒素〈exfoliative toxin〉が表皮細胞のデスモグレイン 1 を分解することで、落葉状天疱瘡に似た表皮内水疱を生じる

設問2 表皮内に存在する抗原提示細胞はどれか。

- a 肥満細胞
- b メルケル細胞
- c メラノサイト
- d ラングハンス巨細胞
- e ランゲルハンス細胞

答え e

ランゲルハンス細胞は表皮内に存在する樹状細胞である。病原菌やウイルスなどの異物を認識すると活性化し、所属リンパ節へと遊走し、T細胞に抗原提示を行う。